

橘小中学校に学童保育

来年度開設に努力を

井上 団次 議員

質問 橘北小の学童は56人に増えた。橘小に設置しないか。たけのこ学童クラブは来年度開設を求めている。一小学校一学童保育所の立場で進めないか。

答弁 橘小中学校区域の保護者からの要望を確認しています。今後、これらの要望を踏まえ、放課後児童対策

についての検討を進めます。

質問 市独自でも取り組み場所、指導員など保護者会と充分協議し、来年度の開設に間に合わせるべきでないか。

答弁 開設の時期など直接要望はありませんが、要望によっては、今後充分協議を進めたいと考えています。

別コース「安い料理」で

温泉と・相乗効果を

質問 たちばなの郷城山は、県内一の温泉・懐石料理・関東平野が見渡せる眺望で売り出している。宿泊客のアンケートの状況はどうか。

答弁 オープンから4カ月の利用者は5580人です。利用者の方からは、好評をいただいております。

質問 ABCの高級コースに一般向けコースを設け、酒（飲物）の低廉化を図り、集客と素泊まりも取り入れ、

さらに稼働率を上げないか。

答弁 おいしい食事と温泉をコンセプトに営業を開始しました。運営方法については、今後も検討します。

質問 駐車場利用、遊歩道など「ばんどうの湯」との連携は不十分である。絶えず検討する機関を設け、地域に親しまれる施設にしないか。

答弁 利用者の皆様に、憩いのひとときを提供できる施設として、さらにサービス向上に努めてまいります。



たちばなの郷城山

農業農村における

「男女共同参画」の推進について

角田 早苗 議員

新市の共同参画ビジョンは

質問 県においても、平成18年3月に「男女共同参画基本計画」の第二次が策定されたが、わが新市のビジョンは。市職員の女性管理職の人数と比率をお尋ねします。

答弁 しづかわ男女共同参画プラン21に基づき、新総

合計画との整合性を図りながら平成19、20年度で新プランを策定します。女性管理職（課長補佐以上）は本庁49人、支所16人、計65人。率は本庁27・07%、支所15・24%、市全体では22・73%です。

農業農村の共同参画の状況

質問 農業農村女性には、農

業生産はもちろん、家庭にあつては家事育児、高齢者の介護など中心的な役割を果たしております。にもかかわらず、方針決定など、重要な場に出席し発言できる機会が少ない実態を、どう受け止めその対策は。市の参画状況をお尋ねします。

答弁 農村女性の社会参画は、不十分な状況と受け止めております。その対策として、既存の農村女性会議を活動の母体とし、条件整備や参画ビジョンの推進、

支援を県のビジョンとも協調して取り組みます。市の主な参画状況は、家族経営協定締結者150組、認定農業者5人、農業委員7人、農協参与5人、農協正組合員608人などです。

質問 農業農村女性組織への支援についての考えをお聞きます。

答弁 総合支所を中心に各組織、団体のご意見を伺いながら、総合支所と協力して側面的に支援、協力を行うてまいります。



渋川発祥の地 元町

疑惑深まる「ばんどうの湯」と温泉施設の指定管理とサービスについて

角田 喜和 議員

質問 回数券2814冊紛失など6項目が、事業調査報告書に記載してある内容は事実であるか。

答弁 中間報告の6項目については、確定できる事項と可能性のある事項を含めて報告いたしました。

質問 不明入館者のうち、不明回数券分3万9054

人は紛失した回数券と一致する。短期間ですべて使われたとは考えにくく、不自然ではないか。被害届を出すすと不都合があるのか。

答弁 不明入館者と回数券の関係につきましては、これまで販売した回数券と不明回数券がすべて使用され

たと仮定して推計した数値です。開館時からの調査により事実が判明した時点で判断いたします。

質問 赤城の温泉施設が直営から(株)渋川温泉による運営で開館時間が遅くなった。開館を9時に戻す考えは。また、送迎バスが廃止になり温泉に来たくても手段のないお年寄りがいる。子持地域では無料バスを走らせている。赤城地域でも復活を。

答弁 指定管理者制度導入

に伴い、開館時間を変更いたしました。

バス運行については、路線バスの時間変更で今後対応してまいります。

質問 (株)渋川温泉による運営になり職員の時給は減らされ社会保険も切られた。働く意欲が削がれる。待遇の改善を。

答弁 指定管理者制度で(株)しづかわ温泉に管理委託しました。他の日帰り温泉施設との均衡を図ることから、ご理解願います。



ばんどうの湯の回数券・招待券・ポイントカード

旧渋川地域の大字は元に戻せ

阿久澤 咏 議員

質問 旧渋川町の自治会が行ったアンケート調査の結果は、不便という回答が圧倒的多数だ。市はこの民意に誠実に応えなさい。

答弁 町名問題は、過去に何度も協議してきたが、実現しなかった。今回のアンケート結果では「渋川」

のままです。この意見も

あります。これらの意見にも配慮して検討を行います。

質問 これまでの市の対応は、困難さを理由に町名問題を先送りしてきた。この際、住民の意見をもとに解決に一步踏み出すべきだ。

答弁 合併後に自治会と担当課による会議を開催したが、より広範な意見を得る

ため新プロジェクトを組織します。この組織により町名表示の問題点の把握や方針が協議され、市民の要望を取り入れた形で結論が出せればと考えています。

質問 住民とともに解決方向を探るための場をつくれ。

答弁 新プロジェクトは、旧渋川町の自治会長、自治会連合会の役員、学識経験者等で構成し、住民とともに検討する組織です。

質問 旧渋川地域の住民は、今までどおりの普通の

生活を望んでいる。実際の暮らしや営業は「不便」という表現以上の深刻さだ。民意に基づく市政を進めるなら、市長の取る道は一つだ。町名の将来のことはそれとして追究しながら、当面旧渋川地区の大字は元に戻すことを決断すべきだ。

答弁 合併して渋川だけが分かりにくくなったのはありません。具体的には新プロジェクトで町名について十分に検討してほしいと考えています。